

# 仕組まれた 南京大虐殺

攻略作戦の全貌とマスコミ報道の怖さ

大井満

## はじめに

「南京で三十万もの大虐殺があった」

「いや、そんなのは嘘らしいぞ」

巷ちまたに流れる二つの声、いったいどちらが本当なのか、と首をかしげている人も多いと思う。かく言う私もその一人だったのだが、それがある事柄を契機けいきとして、その疑問を解こうという気になった。

それは自分でも思いもよらぬことだったのだが、それは、私の恩義ある大先輩が、南京攻略作戦に参加された一人だったからである。その方が亡くなられる少し前のことだが、

「虐殺などという事実はなかった」

と、ふつと漏もらされたのである。そして、悪逆無道のかぎりをつくしたなどと言われることになり、無念の思いを強く抱かれていることが、よく分ったのである。三十数年にも及ぶ長い交遊の中でも、戦争の話などついぞされなかっただけに、私は意外の感に打たれたのだが、四十年

もの間、そうした思いを抱きながらも、教育者という立場もあつてか、それを口にするともならず、じつと生き続けてきたことが分るにつれ、私にとっては大きな衝撃となった。

そして、その方が亡くなられた後、私の心の中には、いつしか南京事件というものが抜きがたいものとなっているのに気づいた。それが私なりにその真相を追求してみようという気にさせていったのだが、もちろんそれは容易なことではない、と初めから分つてはいた。が、いざ足を踏み入れてみると、それは想像以上で大筋を理解するだけでも大変で、一年や二年はすぐたつてしまった。まして自分なりに書いてみようとなると、本当のところゆき詰まりの連続であつた。なにしろ、南京攻略戦という一大作戦のすべてをそれなりに把握しなければならぬという、思いもかけぬことになつてしまつたからである。

だが幸いなことには、これまでにもこの研究者が何人かおられ、その著作がよき先達となつてくれた。それはまず鈴木明氏の『南京大虐殺のまぼろし』、田中正明氏の『南京事件の総括』の二著で、ともに大変な労作で、特に田中氏は関係者の一人とも言うべき立場にあり、また中国戦線での従軍体験もゆたかであるだけに、その研究は徹底している。次いででは偕行社の『南京戦史』だが、これは旧軍人の方々が手がけたものであるだけに詳細をきわめている。

ただそれだけに専門的であるが故に、一般読者には難しすぎるくらいがあるのは当然だ。そしてさらには、この戦史の元となつた敵本正巳氏の『証言による南京戦史』（文中は敵本戦史と呼

称)、そして阿羅健一氏の『聞き書き南京事件』がある。これらはすでに故人となられた方々の、重要な証言が多く収録されているのだが、二度と得られぬものであるだけに、まことに価値高いものだ。

とにかく南京事件なるものは、虚説、実説入り乱れ混沌としているだけに、そうした中にこれら先達の研究と著作が出されていることは、日本の歴史を正しく伝えるために大変喜ばしいことである。

これらの研究を土台とさせていただき、さらに各聯隊史や郷土部隊戦史などを繙ひもとき、また参戦者の方々の話も聞き、私なりの南京攻略戦と虐殺問題を俯瞰ふかんしていった。

とにかく若年層に理解してもらえればと、願うばかりである。

カバーデザイン  
妹尾善史

目次  
仕組まれた  
“南京大虐殺”

はじめに I

第一章 都城にあがる怒りの声…………… 9

第二章 南京城総攻撃始まる…………… 31

第三章 第六師団の激戦…………… 39

一 三明中隊の南京城突入 41

二 鹿兒島四十五聯隊の北進 50

1 揚子江を逃げる敵船 2 野戦重砲米艦を砲撃 3 江東門街 送信所の占領

4 十三日 城西での各戦闘 5 将なき兵の悲哀

三 そして終戦 82

四 万人坑と死体橋 86

第四章 京都の十六師団と捕虜の大量…………… 97

一 紫金山の攻略戦 98

二 佐々木旅団の混戦 105

三 仙鶴門鎮の捕虜 108

四 揚子江岸 下関への突入 118

五 海軍十一戦隊の突入 121

六 戦場の実態 126

第五章

山田旅団と捕虜の暴動…………… 139

一 幕府山砲台の攻略 140

二 戦後の虐殺主張 159

三 記事の捏造 164

第六章

城内への突入…………… 175

一 まず城壁をめぐる攻防 176

二 城内中国軍の動き 181

三 各門からの城内突入 185

1 城壁角の破壊口から城内へ 2 光華門からの突入 3 武定門 4 静かな

る中山門 5 挹江門からの突入 6 捕虜の不法処断

四 難民区の掃討 201

1 立入禁止の厳命 2 難民区の実態 3 便衣兵 4 日本の軍事探偵

第七章

平和な街 南京…………… 217

一 難民区の国際委員会 218

二 戦争被害調査 229



三 報道班員の言 234

第八章 記事に殺された元軍人……………247

一 南京軍事法廷 248

二 その娘さんのたどった道 265

三 進歩的文化人という人々の文化革命論 270

第九章 虐殺話のそもそもの源……………277

一 陥落当時の外電記事 278

二 東京裁判 289

三 戦後の南京事件 302

四 新聞と映像の影響 308

五 戦後の新聞とテレビ 314

- 1 左翼礼讃とテレビ
- 2 人心荒廃と犯罪の激増